

## 不登校問題に関する調査研究協力者会議

&

## 不登校追跡調査

奈良女子大学  
伊藤美奈子

1

不登校問題に関する調査研究協力者会議

## 協力者会議の基本スタンス

平成4年の報告は“妥当”

⇒不登校は「どの子にも起こりうる」

あることを前提にしたさまざまな取り組み

しかし、不登校の要因・背景は多様化

⇒不登校の最新情報を共有し、取り組みを再検討

2

不登校問題に関する調査研究協力者会議

## 不登校の現状

1990年代までは「神経症的な不登校」が比較的多数

⇒“待つ”ことの大切さ

“過度な登校刺激”は控えるべき、との見解も意味があった

しかし、その後、不登校は多様化・複雑化

いじめ、虐待、発達障害などが背景にあるものも増加

↓

一括りにして“待つ”だけでいいのだろうか？

3

不登校問題に関する調査研究協力者会議

## 不登校問題に対する基本的な考え方

- ①社会的自立への支援の視点
- ②連携ネットワーク
- ③社会的自立のための学校の意義・役割
- ④働きかけることや関わりを持つことの重要性と教員等の役割
- ⑤保護者の役割と家庭への支援

4

## 社会的自立と進路の問題

不登校の解決の目標＝社会的自立  
不登校は“心の問題”のみならず“進路の問題”

←連携ネットワーク

多様な選択肢や学習の場の提供

公・民(民間施設やNPO等)の連携協力による進路の保障

←学校の意義や役割

有用で魅力ある学校づくり

きめ細かく柔軟な支援

5

## そのほかのポイント

- ◇適応指導教室
- ◇民間施設
- ◇訪問型支援
- ◇ITの活用
- ◇高等学校における不登校や中退
- ◇中卒後のひきこもり etc.

6

## 調査概要

平成18年度の中学3年に在籍し、不登校とされた41,043人対象

- ①A調査・・平成23年10～12月  
中学校対象 回答数=28,388人
- ②B調査・・平成24年1～3月  
経験者本人へのアンケート 回答数=1,604人
- ③C調査・・平成24年8～12月  
経験者本人へのインタビュー 回答数=379人

7

## 調査結果1

- ◇不登校の主な継続理由  
無気力でなんとなく(43.6%) 身体不調や不安(42.9%)  
いじめ等の人間関係(40.6%) 生活リズムの乱れ(33.5%)  
勉強についていけない(26.9%) 不登校は悪くない(25.1%)
- ◇中3時に受けていた支援  
SCや相談員(34.0%) 学校の先生(29.5%)  
病院・診療所(24.1%) 養護教諭(23.6%)  
教育支援センター(19.7%) 民間施設(8.8%)  
何も利用しなかった(22.5%)

8

## 調査結果2

- ◇不登校の傾向分析  
5類型:無気力型, 遊び・非行型, 人間関係型, 複合型, その他型
- ◇時期の分析  
不登校が一度長期化すると, その回復が困難
- ◇休み始めと長期化の時期にタイムラグ  
⇒一定の潜在期間を経て不登校になる
- ◇中3時にほしかった支援と現在必要とする支援は関連している

9

## 調査結果3

### その後の進路

- ◇中卒後の高校進学・・・高校進学率(85.1%), 中退率(14.0%)
- ◇20歳現在・・・就業のみ(34.5%), 就学のみ(27.8%),  
就学・就業(19.6%), 非就学・非就業(18.1%)
- ◇20歳現在の就学先・・・大学・短大・高専(22.8%),  
高等学校(9.0%), 専門学校・各種学校(14.9%)
- ◇20歳現在の就業状況・・・正社員(9.3%), パート・アルバイト(32.2%),  
家事手伝い・会社経営(3.4%)

10

## 調査結果の分析1

### ◇不登校への支援

学校にいるSC・相談員の利用した割合が高い  
教育支援センターや民間施設の利用も増えている  
《支援体制の充実》

しかし一方, 回復が難しい傾向や「潜在期間」の存在  
《早期対応や予防の必要性》

11

## 調査結果の分析2

### ◇進路の状況(前回比)

高校進学率の大幅な増加(85.1%←65.3%)  
高校中退率の大幅な改善(14.0%←37.9%)  
大学等への進学率の向上(22.8%←8.5%)  
非就学・非就業の割合は減少(18.1%←22.8%)

しかし, 一般的な進路状況に比べると, まだ差はある

12

## 調査結果の分析3

### ◇インタビューの結果(一部)より

不登校を肯定的に意味づけている人の語り

「休んだことで今の自分がある」「成長した・視野が広がった」

「出会いがあった」「人とは違う経験をした」

(現実生活への満足感・不満のなさ)

不登校を後悔している人の語り

具体的な喪失:学力, 進路, 友だち, 思い出

(現実生活における不利益や不本意感)